

極端気象データベース MP レーダ雨量画像情報 Extreme Weather Database -MP radar precipitation image information-

栢原 孝浩^{1*}, 前坂 剛¹, 真木 雅之¹, 三隅 良平¹, 土屋 修一²

KAYAHARA, Takahiro^{1*}, MAESAKA, Takeshi¹, MAKI, Masayuki¹, MISUMI, Ryohei¹, TSUCHIYA, Shuichi²

¹ 防災科学技術研究所, ² 国土技術政策総合研究所

¹NIED, ²NILIM

近年、都市域において局地的で急速に発達した豪雨による災害が多発している。現在豪雨監視に用いられている雨量情報は、在来型レーダにより推定された雨量を、地上の雨量計で補正して精度を向上させたものである。雨量計による補正は、数十分程度の時間が必要となるので、急発達する局地的な豪雨をとらえるには不十分である。国土交通省では、豪雨の実況監視強化のため、雨量計による補正を必要としないXバンドマルチパラメータ(MP)レーダを設置し、試験運用を行っている。11台のMPレーダが2010年7月から関東、中部、近畿、北陸において運用を行い、さらに15台のMPレーダが2011年7月から、栗駒山周辺、新潟、静岡、岡山、広島、九州北部、桜島において運用を行っている。MPレーダの雨量情報は、従来型レーダによる雨量情報よりも、高空間解像度(250m)で、高時間解像度(1分)の情報を提供する。したがって極端気象事例の特徴をとらえるのに有効である。防災科研では、国交省よりMPレーダデータをリアルタイムで取得し、解析に必要なデータを作成し蓄積している。また降水事例の概観を容易にすることを目的として、雨量画像データベースを構築している。データベースは、毎正時降水強度画像、1時間積算降水量画像、1時間毎に毎分の降水強度画像を含んでいる。1時間降水量データや毎分の降水強度データを用いて、都市域の豪雨の特徴を調べていく予定である。

キーワード: 極端気象, データベース, MPレーダ, 雨量画像

Keywords: Extreme Weather, Database, MP radar, Precipitation image